

登録ストックヤード利用の流れ

1 スtockヤード利用前に建設発生土の土質区分について調査試験で確認してください。

表-1 土質区分判定のための調査試験方法

判定指標※1)	試験方法	規格番号・基準番号
コーン指数※2)	締め固めた土のコーン指数試験方法	JIS A 1228
土質材料の工学的分類	地盤材料の工学的分類方法	JGS 0051
自然含水比	土の含水比試験方法	JIS A 1203
土の粒度	土の粒度試験方法	JIS A 1204
液性限界・塑性限界	土の液性限界・塑性限界試験方法	JIS A 1205

※1)改良土の場合は、コーン指数のみを測定する。

※2)1層ごとの突固め回数は、25回とする(参考表参照)

2 利用する(特記仕様書等で指定されている)登録ストックヤードに、持込む建設発生土の土質区分と搬入土量、搬入時期をお知らせ頂き受入れが可能であるかご確認願います。

3 受入れが可能な場合は各利用申請書を提出してください。不可能な場合近隣のストックヤードをご紹介致します。(一社)岩手県建設発生土リサイクル協会にお問合せ願います。 ※週間予定表(配車台数・運搬回数・搬入、搬出予定日等)の提出をお願いします。

4 各ストックヤードより運搬車両1台毎に搬入・搬出伝票の受け渡しをお願いします。運搬車両種類別ヤード持込土量(ほぐし土量)は表-2の標準積載量とします。

表-2 ダンプトラック種類別標準積載量

運搬車両	荷台寸法	荷台体積	積込土砂比重	平積積載重量	標準積載量	積載重量
2tDT	3.05×1.60×0.32	1.5m ³	1.3t~1.6t/m ³	1.95t~2.40t	1.2m ³ /台	1.92t/台
3tDT	3.05×1.60×0.37	1.8m ³		2.34t~2.88t	1.8m ³ /台	2.88t/台
4tDT	3.40×2.05×0.35	2.4m ³		3.12t~3.84t	2.4m ³ /台	3.84t/台
10tDT	5.10×2.20×0.52	5.8m ³		7.54t~9.28t	6.0m ³ /台	9.60t/台

5 スtockヤードへの搬入完了後、完了届の提出をお願いします。利用料金お支払い後『土砂受領書』を交付いたしますので、発注者へ提出願います。 ※登録ストックヤードでは土砂受領書の写しを5年間保存します。

6 スtockヤード利用時の留意事項

- ①廃棄物処理法に規定されている廃棄物が混入した建設発生土は受入れできません。
※廃棄物の混入が確認された場合は受入れを一時停止し、廃棄物は全て引取り願います。
- ②土壌汚染された場所からの建設発生土は受入れできません。
- ③申請内容と異なる建設発生土が搬入された場合は受入れを一時停止し、搬入済みの土砂について区分判定試験(含水比、コーン指数)をお願いします。(区分変更協議のため)
- ④雨天日のストックヤードのご利用は、一般道路汚損防止の観点から休止と致します。
※(小雨、降雪、降雨後の利用については利用ストックヤードに直接問合せ願います。)
- ⑤最大積載量5t以上の車両は必ず「ダンプカー規制法」等による法令を遵守してください。
- ⑥違法改造した車両及び過積載車両での利用は出来ません。確認した場合入場を禁止します。
- ⑦処理土・改良土の販売は、購入者が事前に品質を確認し、購入者の承諾を得てから搬出します。

未来につなぐ、
建設資源の循環を、岩手から



未来につなぐ、建設資源の循環を、岩手から
一般社団法人 岩手県建設発生土リサイクル協会



災害の教訓と建設発生土をめぐる現状

令和3年7月3日午前10時30分頃、静岡県熱海市伊豆山地区において発生した大規模土石流災害は、二十八名もの尊い命を奪い、多くの住民の生活と地域社会に甚大な被害をもたらしました。

この痛ましい災害は、盛土の安全管理及び建設発生土の適正な取扱いが、人命と地域社会を守るうえでいかに重要であるかを私たちに突き付けました。

私たちは、この災害の教訓を決して風化させてはならないと考えます。

同様の悲劇を二度と繰り返さないためには、建設発生土に携わる事業者一人ひとりが高い倫理観と社会的責任を自覚し、安全性の確保、法令遵守の徹底及び適正な資源循環の推進に業界全体で取り組んでいかなければなりません。

近年、循環型社会の形成、天然資源の有効活用及び環境負荷の低減が求められるなか、建設発生土の再資源化は重要な役割を担っています。

一方で、品質管理、安全管理、コンプライアンスの徹底及び適正な流通体制の構築など、多くの課題に対して個々の事業者のみで対応するには限界があり、業界全体が連携し、社会的責任を果たしていくことが求められています。

循環型社会における建設発生土リサイクル協会の役割

この度、建設発生土の利用促進に取り組む県内の登録ストックヤード事業者にて、（一社）岩手県建設発生土リサイクル協会を設立いたしました。岩手県の建設発生土のリサイクル率は低い状況にあります。考えられる要因として、良質の発生土は工事間の利用時期のずれにより、土質不良による流用が困難な発生土は残土として最終処分している現状があります。不要な土はありません。私たちはストックヤードをフル活用することで、良質土のリユース（一時保管による工事間での利用時期の調整）や不良土のリサイクル（土質改良による再生）販売を行う事で、循環型社会を形成する一助になるものと考えます。利用促進を図るため現場の求めに応じた品質改良土（土質に適した含水比や粒度分布に整える）を提供する事でリサイクル率が向上し、SDGsの目標12-「作る責任使う責任」を達成できます。また行政の協力を仰ぎ、（一社）岩手県建設発生土リサイクル協会と連携した「違法盛土パトロール」を実現することで、危険な盛土や不適切な残土処分を未然に防ぐと共にコンプライアンスの徹底を図って参ります。

建設発生土区分

土質区分基準

区分	コーン指数 qc(kN/m ²)	土質材料の工学的分類		含水比(地山) Wn(%)	掘削方法	受入れ基準詳細 (搬入前に各SYに確認)
		土質分類	中分類土質{記号}			
第1種 建設発生土	—	礫質土	礫 G ,砂礫 GS	—	※排水に考慮するが、降水、浸出地下水等により含水比が増加すると予想される場合は、1リンク下の区分とする。 ※水中掘削等による場合は、2リンク下の区分とする。	粒径30cm以上の岩塊や転石が多数混入する場合は、受入れについて別途協議が必要。
		砂質土	砂 S ,礫質砂 SG	—		粒径30cm以上の岩塊や転石が多数混入する場合は、受入れについて別途協議が必要。
第2種 建設発生土	800以上	礫質土	細粒分まじり礫 GF	—		バックホウ0.5m3級(12t)の走行が可能な硬さの粘性土及びこれに準ずるもの。
		砂質土	細粒分まじり砂 SF	—		湿地ブルドーザの走行が不可能な軟らかい粘性土及びこれに準ずるもの。
第3種 建設発生土	400以上	砂質土	細粒分まじり砂 SF	—		標準仕様のダンプトラックに山積みできず、その上を人が歩けないような流動性を呈する状態のもの。受入れ基準は運搬可能な状態まで脱水した土砂に限る。丈の長い草の混入は受入れ停止とする。
		粘性土	シルト M ,粘度 C	40%程度以下		
		火山灰質粘性土	火山灰質粘性土 V	—		
第4種 建設発生土	200以上	砂質土	細粒分まじり砂 SF	—		
		粘性土	シルト M ,粘度 C	40~80%程度		
		火山灰質粘性土	火山灰質粘性土 V	—		
		有機質土	有機質土 O	40~80%程度		
泥土	200未満	砂質土	細粒分まじり砂 SF	—		
		粘性土	シルト M ,粘度 C	80%程度以上		
		火山灰質粘性土	火山灰質粘性土 V	—		
		有機質土	有機質土 O	80%程度以上		
		高有機湿度	高有機質土 Pt	—		

建設発生土の受入れから再利用の流れ

区分	コーン指数 qc(kN/m ²)	建設発生土の受入れ・保管方法	活用方法・処理方法	適用用途
第1種 建設発生土	—	工事間での再利用期間調整のためストックヤードで一時保管。粒径30cm以上の岩塊、転石と土砂を選別(岩塊、転石は有料で破碎)	処理土使用(リユース)	第1種建設発生土・改良土
			乾燥、粒度調整(破碎等)	埋戻し,構造物裏込め,道路,築堤,造成,鉄道,空港盛土,水面埋立
第2種 建設発生土	800以上	工事間での再利用期間調整のためストックヤードで一時保管。粒径30cm以上の岩塊、転石と土砂を選別(岩塊、転石は有料で破碎)	処理土使用(リユース)	第2種建設発生土・改良土
			脱水、乾燥、粒度調整	埋戻し,構造物裏込め,道路,築堤,造成,鉄道,空港盛土,水面埋立
第3種 建設発生土	400以上	受入れ後、ストックヤード内で自然ばっ気を行いながら、工事間での再利用に備え一時保管。再利用決定次第、所定の品質が得られるよう品質改良を行い販売する。	処理土使用(リユース)	第3種建設発生土・改良土
			改良土利用(リサイク)	埋戻し,構造物裏込め,道路,築堤,造成,鉄道,空港盛土,水面埋立
			脱水、乾燥、土質改良	
第4種 建設発生土	200以上	受入れ後、春~夏にかけストックヤード内で攪拌による自然ばっ気を繰り返しながら、再利用に備え一時保管。再利用決定次第、所定の品質が得られるよう改良を行い販売する。	改良土利用(リサイク)	第4種改良土
			脱水、乾燥、土質改良	埋戻し,構造物裏込め,道路,築堤,造成,鉄道,空港盛土,水面埋立
				適切な土質改良を行えば使用可能
泥土	200未満	受入れ後、春~夏にかけストックヤード内で攪拌による自然ばっ気を繰り返しながら、再利用に備え一時保管。再利用決定次第、所定の品質が得られるよう改良や、適切な良質土とのブレンドを行い販売する。	改良土利用(リサイク)	泥土a、泥土b、泥土c
			脱水、乾燥、土質改良	埋戻し,構造物裏込め,道路,築堤,造成,鉄道,空港盛土,水面埋立
			泥土c(良質土との混合)	
				適切な土質改良を行えば使用可能

※1) 処理土とは脱水、乾燥、粒度調整(破碎)により土質改良を行い、その性状を改良した発生土のことをいう。

※2) 改良土とはセメント系や石灰系の固化材を混合し土の性状を科学的に改良した発生土のことをいう。